

Vol.204 中高生の花粉症と悩み

スギ花粉が多く飛散する2月から3月は中高生の受験シーズンと重なります。花粉症の症状は、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、目のかゆみ、目の充血、涙のほかにも、頭痛、倦怠感、集中力の低下などによって、勉強に集中できなくなる場合があり、受験生にとって深刻な問題となっています。では、中高生の花粉症の実態は、どのようになっているのでしょうか？今回は、全国の中学・高校生1,200人に自身の花粉症の発症有無、花粉症で勉強に集中できない頻度、今、悩んでいることについて調査しました。



調査概要

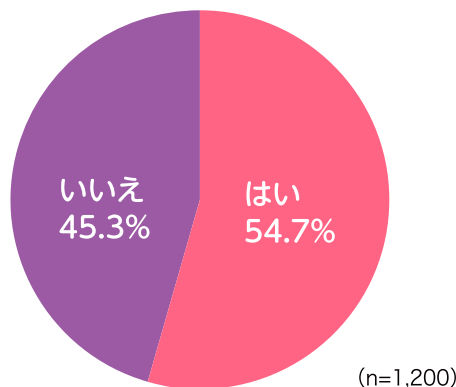
調査対象：全国の中学・高校生 1,200人

調査方法：インターネットリサーチ

実施時期：2022年7月

Q 1. 中高生の花粉症の発症有無

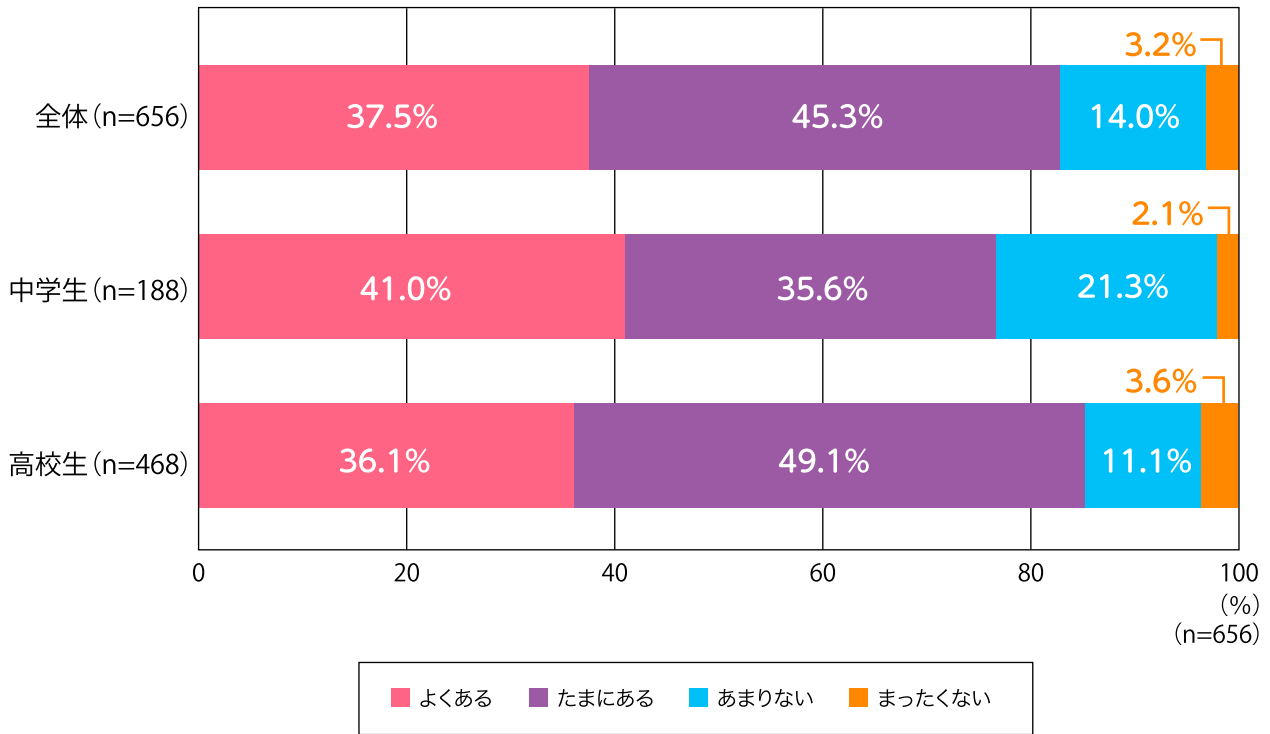
自身の花粉症の発症有無に関しては、「はい(花粉症である)」(54.7%)が半数を超えています。中高生の2人に1人が花粉症を発症していると回答しています。



【図1】 あなた自身は、花粉症ですか。(単数回答)

Q 2. 花粉症で勉強に集中できない頻度

花粉症であると回答した中高生が、花粉症の影響で勉強に集中できないと感じた経験は、全体では「よくある」(37.5%)、「たまにある」(45.3%)をあわせると82.8%が勉強に集中できないことがあると回答しています。学校別では、中学生は「よくある」(41.0%)、「たまにある」(35.6%)をあわせると76.6%、高校生は「よくある」(36.1%)、「たまにある」(49.1%)をあわせると85.2%となり、中学生に比べて高校生のほうが、花粉症で勉強に集中できない経験頻度が多いという結果になりました。

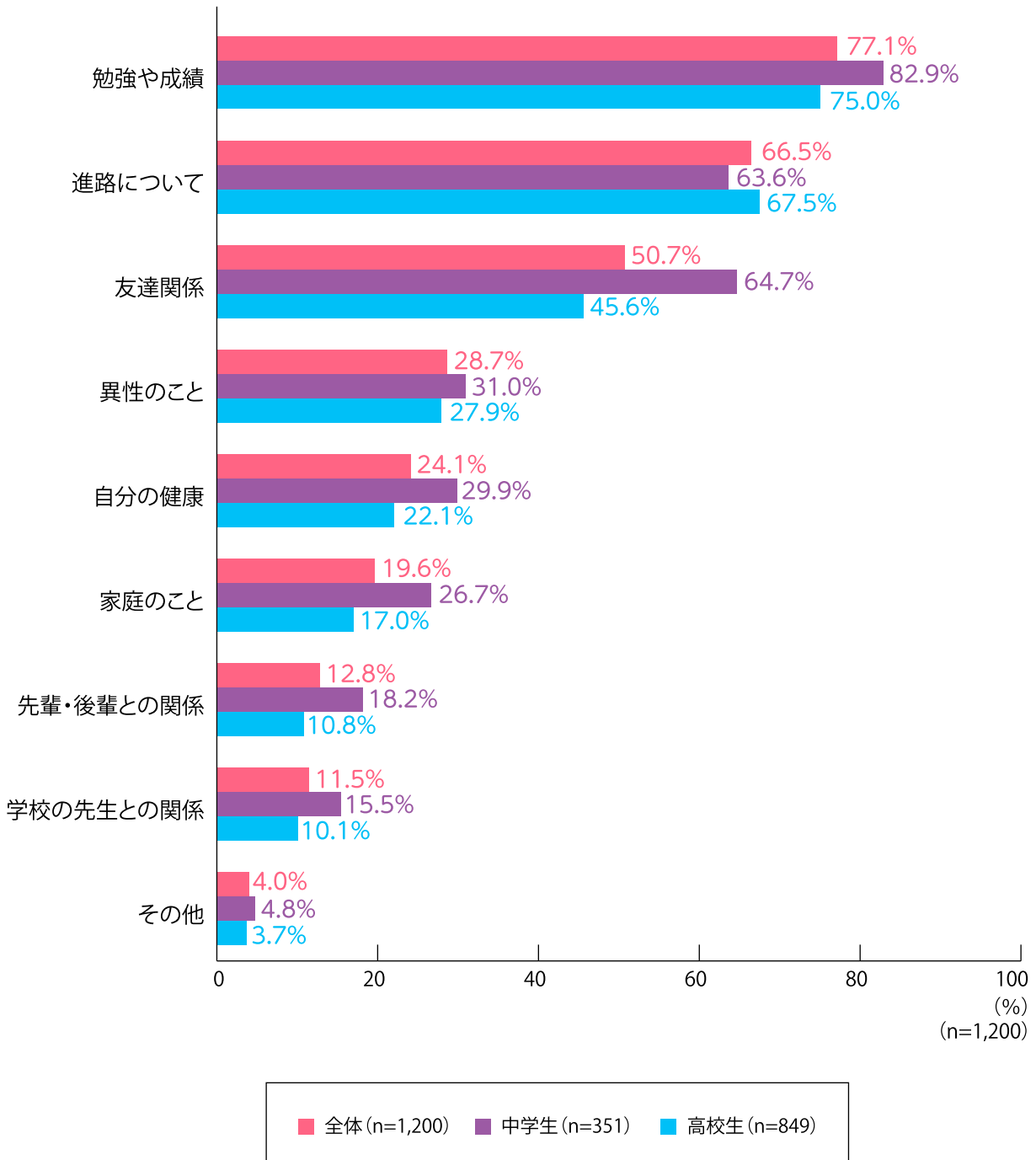


※グラフの数字は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。


【図2】 あなたは、花粉症で勉強に集中できないと感じたことはありますか。(単数回答)

Q3. 今、悩んでいること

中高生が今、悩んでいることは、「勉強や成績」(全体77.1%、中学生82.9%、高校生75.0%)が最も多く、次に「進路について」(全体66.5%、中学生63.6%、高校生67.5%)があげられ、勉強・進学への悩みが圧倒的に多いようです。また、中学生は「友達関係」(64.7%)を悩んでいるという回答も多くみられます。



【図3】今、悩んでいることはどのようなことですか。(複数回答)

 まとめ

近年では花粉症の発症年齢が低下し、10代でのスギ花粉症有病率も増えています。多くの中高生がかかえる花粉症は、鼻や目の症状だけでなく、集中力の低下、睡眠障害、体調不良など日常生活に支障が出ることもある現代病の1つです。今回、全国の中学・高校生1,200人を対象に花粉症の状況を調べたところ、自身の花粉症の発症有無に関しては、「はい(花粉症である)」(54.7%)という回答が半数を超え、中高生の2人に1人が花粉症を発症しているようです。花粉症の影響で勉強に集中できないと感じた経験は、中学生は「よくある」(41.0%)と「たまにある」(35.6%)をあわせると76.6%、高校生は「よくある」(36.1%)と「たまにある」(49.1%)をあわせると85.2%となり、高校生が花粉症で勉強に集中できない頻度は8割を上回って多いようです。また、中高生が悩んでいることは、1位「勉強や成績」(全体77.1%、中学生82.9%、高校生75.0%)で、2位「進路について」(全体66.5%、中学生63.6%、高校生67.5%)があげられ、勉強・進学に対して悩みをかかえる中高生の多さがうかがえます。このことから、花粉症で勉強に集中できないことは、中高生にとって深刻な問題のようです。

花粉症は、花粉に対して人間の体が起こすアレルギー反応です。花粉症の対策としては、専用のマスクとメガネを装着したり、こまめに手洗いやうがいを行ったりすることも効果的とされていますが、衣類に花粉を付着させたまま室内に持ち込まないことも重要です。

毎月最終
火曜日
更新

カンコーホームルーム ～学生を読み解くデータ集～

カンコーホームルームは、学生を取り巻く環境や子どもたちの意識・ライフスタイルについて、多角的に調査・分析し、その結果をお届けしています。
ホームページでは、今回ご紹介した調査データ以外にも様々な情報を掲載しております。

<http://kanko-gakuseifuku.co.jp>